藤原記念病院広報紙

なつめ

Vol.11
natume

平成23年７月10日　発行・藤原記念病院　病院長：白山公幸　編集：なつめ編集室

つながり

病院長　白山 公幸

この度の、東日本大震災により、尊い命を失われた多くの皆様に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。今回の大地震や大津波を通じて当病院がその大切さを痛感したことは、「つながり」でした。

当院でも、地震当初の停電時から自家発電に切り替わり、最低限の病院機能維持が可能な状態でした。しかし、頼みの綱の自家発電機が不調となり、夜間完全に停電してしまいました。その際、人工呼吸器を装着されている患者さんが最も危険な状態でしたが、スタッフの手で呼吸維持を行い、また自家発電機復旧までの電源車の燃料の確保の際には、地域の方々が直接病院を訪問されて御協力いただきました。本当に感謝申し上げます。おかげさまで、病院も重大な事故もなく地震後の危険な状態を脱することができました。

医療機器をはじめとして、病院機能の維持は電気があることが前提となっております。電力や通信手段が失われた時に、もっとも頼りになったものが、病院に関わっている普段直接顔を合わせている方々の力でした。平時に培った関係が有事の際、特に通信手段が失われた時に最も頼れる存在であることを再認識いたしました。

また、私の大学の同級生は宮城県の南三陸町で開業しておりましたが、今回の大津波で命こそ助かったものの、クリニックが被災しました。普段は顔を合わせることも、連絡をとることもなかなか無い同級生ですが、通信手段が復旧後にｅ－ｍａｉｌで同級生のネットワークが動きだしました。現状の確認や被災状況の連絡を皮切りに、被災された同級生に対する励ましや情報提供、ささやかな手助けなど次々と連絡や行動が巻き起こりました。まさに、時間や距離を超えた「つながり」を改めて実感しました。

幸い、秋田県は大きな被害はありませんでしたが、秋田県沖の日本海に地震の空白域もあり、大きな津波が押し寄せた際には海岸に近い当院も大きな被害を受ける可能性もあります。自然の驚異の前にはなすすべがないこともあります。それでも、今回の地震を通じて、普段我々が行っている医療を通じた新たな「つながり」を作り続けることが、有事の際に最も心強い力になることを信じてこれからも努力したいと考えます。

医療法人　敬徳会　藤原記念病院の理念と基本方針

私たちは設立の動機である『地域のための医療』を理念とし、次の事項を基本方針といたします。

基本方針

1. 良質な医療提供に関する事項

患者さま本位の医療と良質な医療を提供することを念頭に、救急病院として急性期医療から慢性期医療までを担う病院。また、地域の福祉施設、訪問看護ステーション、自治体などと連携し患者さまに最適な療養環境の提供を目指します。

2. 患者さまに対する職員の対応に関する事項

笑顔をモットーとし、常に患者さまの立場に立ち、患者さま中心の精神を持って行動します。

3. 患者さまの権利の尊重に関する事項

患者さまの権利章典を制定し、常に患者さまの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた『共同的な営み』として医療を行います。

4. 職員の就業に関する事項

私たちはプロ意識を持ち、常に自己研鑽に励み、新しい知識と技能の習得に努めます。

Fujiwara Memorial Hospital

東日本大震災～釜石～

秋田県の災害医療救護チームとして、日帰りで釜石に行ってきました。

４月初めでしたが、釜石に到着すると駅までの様子とその先の海沿いでは光景が全く違っていました。三陸鉄道の線路の一部が海を横断する橋になっていたのですが、途中から橋げたがグニャリと折れ曲がり、その先で線路が水没していました。そして水没した橋の周りには、流された自動車や船、瓦礫が山になっていました。自衛隊の方たちが重機で瓦礫を処理している脇を縫うようにして、避難所へと向かいました。

１６０名ほどが避難生活を送っている体育館を巡回診療しましたが、まだ水道の復旧はなく、給水車が回ってくるのを待っているような状況でした。外では炊き出しが行われていましたが、体育館内に残っているのは主に高齢の方たちで、若い人は自宅の片付けや、仕事、各種手続き等にでかけているようでした。釜石では幸いなことにインフルエンザや感染性胃腸炎の流行が見られていなかったので、血圧を測ったり、膝や腰の痛みに対して湿布を渡したり風邪薬を処方することが多かったです。巡回している最中に１度余震があったのですが足元から突き上げられるように揺れて、かなりの恐怖を感じました。

午後からは自宅に避難している方たちの巡回を行いました。電気の復旧がまだのため、電動のベッドが使えず、夜間のおむつ交換も暗闇の中で懐中電灯の明かりを頼りに行っているとの事でした。避難所には１週間に１度自衛隊の入浴車が巡回しているそうですが、寝たきりの方は地震以来一度も入浴していない方がほとんどのようでした。病院で支援物資として衣類を集めて持参しましたが、支援物資の仕分けも大変な仕事のようで、中身を分類して段ボール箱につめ、表書きもしていったのですぐ受け付けてもらえました。

秋田県では初期のDMATに続き、３月１８日からは秋田県災害医療チームとして病院チームが２泊～３泊でつなぎ、その他医師会員（開業医含む）も協力し男鹿市南秋田郡医師会からも多数の医師が協力して出動しています。この後も６月いっぱいは医療支援を継続する予定となっているようです。阪神淡路大震災とは異なり、津波による重傷者、外傷者は一部で、実際は日常診療が受けられない期間が長引き、通常の外来診療のカバーが主になっていると思います。ただ日帰りでは患者さんのほうも毎回違う医師の診察を受けることになり、長く滞在してくれる医師が欲しいという声が聴かれました。派遣される医師の通常業務への支障もあるためなかなか難しいとは思いますが、被災した地元の医師が仮の診療所を立ち上げ、患者さんたちのために頑張っている姿を見ると私たちも何かできることはないかと考えさせられます。これから復旧にはまだまだ時間がかかります。私たちが今できることを皆さんにも協力していただきながら、息の長い支援をしていくことが必要だと実感しています。

在宅診療科長　吉成　ひろ子

各部門紹介コーナー

今回は　看護部手術室の紹介です

部門概要

・手術室の場所は、耳鼻咽喉科の外来横のピンクのエレベーターに乗り、２階で降りるとすぐ右側に入口があります。手術室はバイオクリーンルームを含め、合計３室となっております。
・手術を行う診療科は、外科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科で平成22年度の総手術件数は２４９件となっています。診療科別に手術件数を見ると、整形外科が多く次に外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科の順となっております。
・手術室では大型の高圧蒸気滅菌器を稼働し、手術で使用する鋼製器械、病棟の医療材料等の滅菌を確実に行い、常に感染防止に努めております。

手術室の設備【主要備品】

全身麻酔器２台、術中患者監視装置（モニター）及び自動麻酔表記録装置２台、除細動器、電気メス３台、内視鏡システム（関節鏡・腹腔鏡）、超音波切開凝固装置、ウオッシャーディスインフェクター（自動器械洗浄装置）など最新の設備が充実しております。

スタッフ：手術室２名、２階・３階・４階病棟から各４名の総勢１６名のスタッフにて構成され、やさしく元気で力持ちの手術室スタッフが患者様をお迎えします。

手術室アピール

当院手術室では各診療科の医師、麻酔科医、看護師が最大限の力を発揮できるように常に室内環境を整備し、手術を受ける患者様が安心・安全に手術が受けられるように努めています。
今後、当院で手術を受ける機会がありましたら、不安な点など遠慮なさらず、主治医、スタッフへ気軽に声をかけて下さい。

≪手術室スタッフ写真≫

スタッフから一言

安心、安全な手術を受けられる様心がけます。

正確な手術看護技術を提供できるよう努めます。

みんな元気でユーモアのあるスタッフが揃っています。

腕の良いDrと抜群のチームワークで安心、安全な手術を提供します。

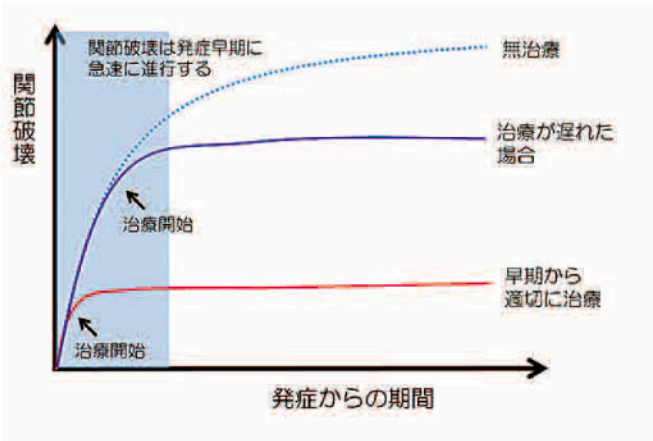
Fujiwara Memorial Hospital

関節リウマチについて

リウマチケア看護師
武田真弓

関節リウマチとは、全身の関節で炎症が起こり進行すると関節軟骨や骨が破壊されていく病気です。原因は不明ですが、自己免疫疾患の１つで女性は男性に比べて３倍多いと言われています。以前の関節リウマチ治療は疼痛の緩和に重点がおかれていました。

ただしその治療では関節の破壊を止める事が出来ないため、日常生活に大きな障害を生じベット上の生活をしいられ、健常人より１０年寿命が短いといわれてきました。そんな中２００３年、今世紀最大の発明と言われる生物学的製剤が登場し、関節リウマチの治療は飛躍的に進歩しました。リウマチ専門医である整形外科の石澤暢浩先生は早くから生物学的製剤の治療を実践されており4年前に当院へ就任されて以降、リウマチの患者様が急激に増えました。私自身、整形外科外来勤務は長いのですが、はずかしながら関節リウマチについての十分な知識はありませんでした。そこで十分な知識を得た上で看護師としてリウマチの患者様にかかわっていきたいと強く思い、『日本リウマチ財団、登録リウマチケア看護師』の認定を受けました。



現在当院では約８０名のリウマチ患者さんがおり、そのうち生物学的製剤の治療を行っている患者さんは１４名おります。以前、寝起きがやっとで介助が必要だった患者さんや車イスだった患者さんがこの生物学的製剤の治療を受けてから杖なしで歩いて外来に来て、「外出の機会が増えた」とか「人生前向きになった」など、感謝の声が多く聞かれるようになりました。

薬剤名	一般名	治療の標的	投与法	投与間隔
レミケード®	インフリキシマブ	TNF	点滴	4-8週毎
エンブレル®	エタネルセプト	TNF,LTa	皮下注射	1週間に2回
ヒュミラ®	アダリムマブ	TNF	皮下注射	2週毎
アクテムラ®	トシリズマブ	IL-6	点滴	4週毎
オレンシア®	アバタセプト	T細胞	点滴	4週毎

現在、日本で使用可能な生物学的製剤

石澤先生は患者様に日々大変な熱意をもって診察されており、その際口癖のように“人生を楽しんで下さい”と患者様に話し、私も同感しております。

これまで生物学的製剤による治療を前提にお話させて頂きましたが、この治療は関節リウマチを患う全ての患者様が可能というわけではありません。いろいろな理由から、この治療を受けることの出来ない患者様がいるのも事実です。その場合は決してあきらめず、医師、看護師、患者様が三位一体となり、根気強く合う薬剤を探していきましょう。必ず、患者様に合った薬剤が見つかるはずです。

リウマチ治療において最も重要なのは“あきらめない”気持ちです、一緒に頑張っていきましょう!!

『さくら プロジェクト』～患者様に寄り添う看護（こころ）～

３階病棟　看護師長　伊藤　久美子

３階病棟では今、患者様に寄り添う看護を実践している。
名づけて「さくらプロジェクト」！！
患者様に生きていると実感してもらえる看護をすることが私たちの目的だ。東日本大震災の後、深い悲しみとやり場のない気持ちの中、命の大切に気付かされた。私が３階病棟へ移動してから「誇り高き看護師の再生」をスローガンに、患者様に寄り添う看護を目指してきた。震災後、今こそそれを実践する時だと強く感じた。

写真①

４月になり春のにおいを感じた時、いつもの年と同じようにさくらを見ることができ、普通に生活できることのありがたさに感謝せずにはいられなかった。このさくらを患者様に見せてあげたい、心からそう思った。これから紹介する２人の患者様は、さくらの花を見るだけにとどまらず、もっともっとハッピーになった人たちだ。

まず紹介する患者様は、寝たきりで気管切開を行い、酸素療法をしている。頻回に痰の吸引が必要だ。さくら並木を眺めながら自宅に帰った。娘さんが菜の花畑で結婚式を挙げると聞き、出席させてあげたいと思った。主治医から許可をもらい、出席にむけて動き出した。結婚式当日の朝に主治医から祝電をうってもらった時は私たちも嬉しかった。この日のために新調したＹシャツは２回も計測して買ったもの。着替えは大変だったけど、その間ずっとニコニコしっぱなし。着替え終えて撮った写真がコレ②。見てください。みんなの笑顔が輝いていること、すてきなこと、泣き笑いも混じっている。病院より送り出す時も全員で車を見送った。

写真②

２人目は、３年前に作業中に高い所から転落。人工呼吸器を装着し、寝たきりとなった患者さん。事故以来、一度も外に出たことがなかった。さくらの花は散って見ることはできなかったが、携帯の人工呼吸器をつけ散歩し、３年振りに入浴もできた。７８歳の誕生日を自宅でむかえることもできた。実に３年と３ヶ月振り。とても感慨深いものだった。写真①は初めて外に散歩に行った時の写真。患者さんの側にいるのは、もちろん院長先生。先生の理解があってこそ実現できたことだ。入浴中の気持ちよさそうな顔③、誕生日で自宅に帰る前の写真④、皆いい顔しているネ。実は私にはさらに嬉しいことがあった。散歩の写真①の中で３０１号室の窓から手を振っているスタッフが見えますか。スタッフ皆が患者様の散歩を見守っていたのだ。それに気付いた瞬間、皆が１つになっているという思いが込み上げてきて胸が熱くなった。

写真③

写真④

今回のプロジェクトを通し、患者様の喜ぶ姿が私たちにとって大きな喜びと感動となり、何よりも看護師みんなの自信になった。

「チーム医療」で働くということは同じ目的を持つ仲間が喜び、連帯感、達成感を共有するということではないだろうか。ひとりひとりの力をありがとう！

防災訓練

～津波を想定した防災訓練を行いました～
「地震後、大津波警報が発令され、潟上市沿岸に10m以上の津波が発生する」と想定。津波による浸水被害により当院４階以上への避難が必要と予想され、避難誘導や複数の避難経路を用いて４階、５階への避難訓練を行いました。

各病棟、避難場所までの誘導にかかった時間の報告を行いました

事務部長が訓練に際しての注意事項を説明しています

新人さんも慣れないホースを手に頑張りました

院長もたっての希望で放水訓練に参加！

編集後記

今回の大震災では人と人、地域のつながりの大切さを実感しました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。当院では電力不足を受け、可能な限りの節電を実施しております。ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力の程お願いします。

Fujiwara Memorial Hospital
藤原記念病院
〒010-0201 潟上市天王字上江川47
TEL 018-878-3131 FAX 018-878-7234

特選！受付のお花

いつも患者様にご好評頂いている受付の花を特選し、紹介します。

サンダーソニア、上品な草姿でなんとなく外国女性を思わせるネーミングでもありますが、由来は単にこの花を発見した人の名前がサンダーソンさん(オジさん)であったから…。

南アフリカ原産の球根植物で春になると芽を伸ばして初夏にツボをひっくり返したようなユニークな形の花を咲かせます。ひとつの花の寿命はだいたい1週間くらい、時間差で下から上に咲き進んでいき約1ヶ月位花を楽しむことができます。
そのユニークな花の姿からヨーロッパでは「クリスマス・ベル」とも言われます。

一般名：サンダーソニア
学　名：Sandersonia aurantiaca
科属名：ユリ科サンダーソニア属
原産地：南アフリカ
花言葉：共感・祈り、愛嬌・望郷

なつめの由来

花自体は小さくてあまり目立たないなつめ。実は利尿作用や滋養強壮の薬として使われたり、食用として食べたりと用途は様々で、とても重宝されております。決して大きい病院ではありませんが、当院も地域の皆様に重宝されるような病院を目指しなつめと名付けました。(なつめの花言葉『健康の果実』)